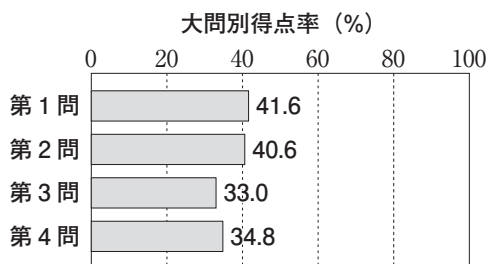
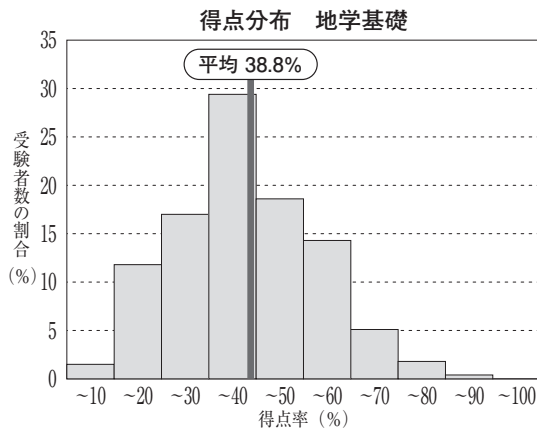


# 地学基礎

## 論理の展開を把握しよう。

### I. 全体講評

今回の得点分布は、次のようになっている。平均点は19.4点であった。一通りの学習を終えている受験者も多かったと思われるが、十分に演習を積み、知識を定着できている受験者はまだ少なかったようである。「地学基礎」は「地学」に比べて学習項目が少なく、教科書をしっかりと理解することで十分に満点を狙える科目である。一つ一つの知識を確実に身につけて、着実に得点を伸ばしていくようにしよう。



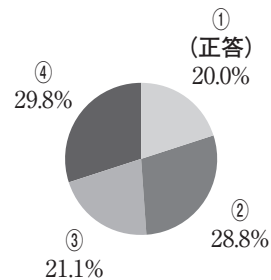
### II. 大問別分析

#### 第1問 地球とその活動

仕組みを理解して覚えよう。

Aでは地球の大きさを求めるエラトステネスの方法と地球楕円体についての基礎的理解を確認した。解説のような図を自分で描いて考察できるようにしておこう。Bでは岩石の成因と風化作用についての理解を確認した。さまざまな岩石の分類や成因をまとめておこう。

#### 問2 [2] 各選択肢の選択率



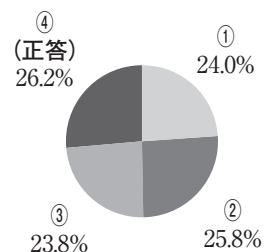
※注) 無回答・マークミスは割愛したため、選択率の合計は100%にならないことがある。以下同様。

#### 第2問 大気の運動

大気の動きに関する知識を整理しよう。

Aではハドレー循環についての基礎的理解を確認した。解説の図を参考に、地球規模の大気の大循環について、用語とともに風向も確認しておこう。Bでは台風の風についての理解を確認した。台風の構造や風向の仕組みを理解しておこう。また、天気予報などの台風のニュースや解説にも注意を払ってみよう。

#### 問2 [7] 各選択肢の選択率

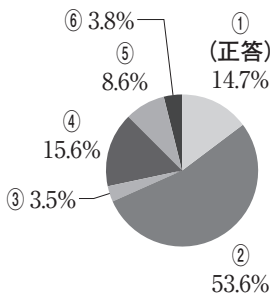


## 第3問 太陽系の惑星

## 各惑星の特徴をとらえよう。

太陽系の惑星の特徴についての総合的理解を確認した。教科書や資料集の写真を活用し、各惑星の特徴を整理しておこう。また、地球型惑星と木星型惑星について、半径・質量・密度だけでなく、表面・自転周期・衛星の数などについても対比させながらまとめておこう。

## 問1 [11] 各選択肢の選択率

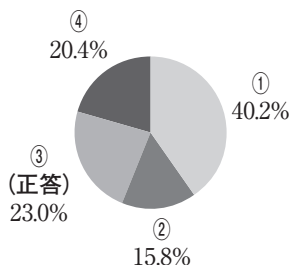


## 第4問 大気と生物の進化

## 関係を理解しながら覚えよう。

大気の進化と生物の進化の関係についての総合的理解と、現在の大気と地球環境の変化についての基本的知識を確認した。現在の地球環境をもとに、過去の地球環境について想像してみよう。その際、丸覚えではなく、環境の変化とその原因を関連付けて、流れをつかんでおこう。

## 問2 [14] 各選択肢の選択率



## Ⅲ. 学習アドバイス

## ◆センター試験の地学基礎について。

センター試験の「地学基礎」は新しい科目のため過去問が少なく、学習を進めるにあたって不安もあ

るだろう。しかし、センター試験の出題範囲は教科書に限られている。センター試験で高得点を得るためには、「教科書」→「問題演習」→「教科書」という流れの学習方法を反复し、教科書を徹底理解することが大切である。

## ◆これからの学習について。

学習にあたって最も大事なことは、地学基礎は暗記科目ではないということである。

「地学基礎」の学習では必ず教科書を通読しよう。教科書を通読したら、今度はできるだけ丁寧に教科書を読み、各分野それぞれの論理の展開を把握しよう。どのような観測や観察、実験がされ、そこからどのような考察がされているのかを理解するために、図・表・グラフを正確に読む力をつけよう。図やグラフを正確に読むためには、それを自分でノートに描いてみるのが大切である。描くことで、見ているだけではわからなかったポイントが見えてくるはずだ。また、教科書を読むときは用語を暗記するのではなく、その用語がどのように使われているのか、その論理の道筋を理解するようにしよう。

## ◆模試を活用しよう。

「地学基礎」にはセンター試験の過去問が少なく、演習量が不足しがちである。そのため、模試を演習の一環として学習を進めていくことが重要となる。2か月ごとに実施される東進のセンター試験本番レベル模試は、全国統一高校生テストも含め年6回で「地学基礎」の出題範囲をすべてカバーするため、学習の進み方と学習の習熟度を判定できるともよい機会である。今後も模試の受験を継続し、着実に得点を伸ばしていこう。